

- (1) 課題設定のための資料  
子どもたちが「はっとしたり、驚いたり、変だと思ったり」する事実、つまり、驚き、興味・関心、疑問、問題意識等を強く持つような事実を内容とする資料の提示と方法の工夫が必要である。
- (2) 課題追究のための資料  
課題追究を軸に「わけを考える。事象間の関係を考える。事象・事実の持つ社会的意味を考える。人間とのつながりを考える。」等の学習が主である。そこで、考えるための事実を正確に捉えさせる資料、事象の関係を捉えさせる資料、社会的意味を捉えさせる資料、事象と人間とのつながりを考えさせる資料が必要である。
- (3) まとめための資料  
課題に対する「まとめ、発展、評価」の話し合い」等が主である。学習したことを現実の生活や自分の生活にあてはめたり、かわりや考えさせられる資料が要求される。まとめのための資料としては、前の段階で使った資料を活用することが多い。
- (四) 主体的に追究するためのグループ学習  
一人一人の子どもは、个性的であり興味・関心、考え方も異なっている。そこで、学習においては、一人一人の思考を出し合える場を構成し、その中で共通の問題をつくり出せば、自分と他との違いがわかり、全体の共通問題に自分の問題を位置づけることができる。

資料4 社会科単元配当表・達成目標＝第6学年＝（抜粋）

月	4		5		6	
	学年達成目標	小単元名	歴史を学ぶ前に(3)	日本の国のなりたち(4)	貴族の世の中(1)	
観 点 別 達 成 目 標	知識・理解	○ 国家社会の発展に貢献した先人の業績や優れた文化遺産についてわかる。 ○ 現在の国民生活の安定及び向上にとって重要な政治のはたらきがわかる。 ○ わが国が国際社会の中で占めている役割がわかる。	○ 郷土や国土に残る歴史的な遺跡や文化財のもつ意味がわかる。	○ わが国が特殊から農耕時代を経て「むら」から「くに」へと発展し、大和朝廷によって統一されていったことがわかる。	○ 大化の改新を通しての国づくりから天皇中心の政治のしくみを整えていったことがわかる。 ○ 天皇にかかわって貴族が政治の実権をにぎり、特に藤原氏が大きな力を持ったことや貴族文化が栄えたことがわかる。	
	観察・資料活用能力	○ わが国の歴史や国民生活に関する基礎的資料を学習のねらいに即して効果的に活用することができる。	○ 郷土や国土に残る遺跡や文化財などを実際に調べ資料を収集し、歴史地図や等天罰年表にまとめることができる。	○ 貝塚・古墳などの遺跡や出土品、神話・伝承などをもとに国土統一までの歩みをまとめることができる。	○ 聖徳太子の業績を調べ年表にまとめることができる。 ○ 貴族のくらしをあらわす資料から、ぜいたくなぐらしぶりを読みとることができる。	
	社会的思考・判断	○ わが国の歴史や伝統のもつ意味や国際社会に生きる日本の役割について考えたり、判断することができる。	○ 郷土や国土に残る遺跡や文化財の歴史的背景を考え、自分たちとのつながりや考えすることができる。	○ 遺跡や遺物、神話伝承などをもとに当時の世の中の様子や「むら」から「くに」としてまとまるまでの歩みを考えることができる。	○ 聖徳太子や聖武天皇が寺院を建立した理由を、当時の世の中の様子と結びつけて考えることができる。 ○ 藤原氏の権力掌握の方法について、資料をもとに考えることができる。	
	社会的事象に対する関心態度	○ 国家社会の発展に貢献した先人の業績や優れた文化遺産について関心を持ち、歴史や伝統にしようとする。 ○ わが国の国際社会の中心日本としての自覚を持つようになる。	○ 郷土や国土に残る遺跡や文化財を通して郷土や日本の歴史に関心を持つようになる。	○ 日本の国の成り立ちをとらえるために、遺跡や遺物・神話、伝承に関心を持つようになる。	○ 絵図・詩歌・物語・遺物などに関心を持つと同時にそれらを通して当時の人々の生活について関心を持つようになる。	

出し合える場として、グループによる学習活動が考えられる。つまり、少数の子どもの共同活動や討議によって、相互に作用を深め、共同して高め合い、主体的に追求させていきたいと考える。さらに、協力したり役割分担を果たすという態度も身につけさせていきたい。

(五) 追究姿勢をつくる自己評価

子どもが自ら学ぼうとする意欲を高めるためには学習の進め方について自己認識を深める評価が必要である。つまり、あくまで自分なりの取り組みで、自分なりの学習を支えていくような評価とならなければいけない。そこで、教師としては、学習に取り組む子どもたちが「やればできる。もつとやりたい。もつと続けたい。」という思いが

連続してくるような単元の組み立て、授業の展開が必要になってくる。

○評価項目例

一めあてがわかりましたか。  
二自分の考えを持つことができましたか。  
三調べる方法がわかりましたか。  
四発表できましたか。  
五友だちの話をよく聞きましたか。  
六協力できましたか。  
七楽しかったですか。

(六) 社会科単元配当表・達成目標の作成（資料4）

(1) 作成の意図

① 教師自らがそれぞれの単元を通して、子どもたちが「何が分かれればよいか。何ができればよいか。」などを具体的にとらえる必要がある。

② 地域・子どもの実態などに即して、各単元の中で評価を見通して、目標を提示する必要がある。

(2) 作成についての実際

小学校児童指導要録付属資料「観点別学習状況評価のための参考資料」をもとに、それを学年の達成とし単元ごとに観点別達成目標を作成する。

① 各観点ごとの達成目標を明示する。

② 目標の書き方は、原則として（ ）のようにする。

ア 知識・理解（…わかる）  
イ 観察・資料活用能力（…できる）